

新年のごあいさつ



金ケ崎町長 高橋 由一

新

年あけましておめでとうございます。本年が町民の皆さんにとりまして希望溢れる年となりますことをご祈念申し上げます。

また、昨年中は町政運営に対してご理解ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、私どもが置かれている環境は新型コロナウイルスの問題を含め、大きな課題がございます。

昨年は、ワクチン接種につつまして、町民の皆さんのご協力をいただき、2回目接種も9割を超える接種を終えました。私は、1万5千人の町民の皆さんが幸せなまち、明るいまちの第一歩が、皆さんの協力、関係者の協力で出来る力のあるまちだと思っております。

金ケ崎町は、東北を代表する産業集積地です。新たな発展のためには、雇用の確保と産業の振興が大切です。町は、産業用地、工業用地の造成を行っております。この造成によって新たな雇用を生むことと町外からの転入者などを増やすこと、雇用と住宅政策・地域

開発をセットにした新たな金ケ崎の将来ビジョンを築いてまいります。

そして、金ケ崎は医療資源に恵まれ、地域、福祉、介護、医療、保健事業に取り組んでいます。町内では、100歳を迎えている人が13人います。町民の皆さんが、みんな明るく元気に100歳を迎えられるよう、健康ポイント事業を中核に、さらに事業展開してまいります。「健康に勝る富はなし」、皆さんが健康で幸せに、金ケ崎で住んでよかった。生まれてよかった。生活することが楽しいと思ってもらえるよう、地域福祉に取り組んでまいります。

防災につきましても、消防力強化と併せて防災力・減災力強化、自主防災組織の能力向上を図りながら、安心のあるまちづくりを目指してまいります。

さて、金ケ崎町でも全域に光ファイバが整備され、デジタル社会の実現に向かっております。これからは若者だけでなく、高齢者もスマートフォンを使って会話や連絡、情報収集をする時代になります。皆さんが新しいデジタル社

会に対応できるまちづくりを進めてまいります。

今、農業は米価下落で窮地に立たされており、農業政策の新たな展開と対策を進めなければ地域農業を守れない状況にきています。

金ケ崎の新たな発展のためには、特に工業、農業、商業振興の3つのバランスのとれたまちとして、新たな発展計画、未来を描くことにより、金ケ崎の成長と発展があると思っております。町民の皆さんと関係機関が一致団結して進むことで、明るいまち金ケ崎ができます。私は「一人の百歩より、百人の一步」、そのような協働の力と新たなまちの姿を見据えて今後のまちづくりを進めてまいります。

金ケ崎は自立のまちを選択しました。自立のまちにふさわしい、金ケ崎の魅力と将来を見据えたビジョンを明確にして取り組むまちづくりを進めてまいります。皆さんの健康とご活躍を心からご祈念申し上げて年頭の挨拶といたします。

※表彰式町長あいさつの要旨を掲載

令和4年

町勢功労表彰

町勢功労表彰は自治功労、教育功労、文化功労の3部門から4人が選ばれました。また、町より感謝状が1団体に贈られたほか、農業賞に2団体が選ばれ、1月5日に行われた表彰式において高橋由一町長から労いの言葉とともに表彰されました。

◆ 教育功労 ◆



すずき ひろし
鈴木 洋さん (78)
＝三ヶ尻十三本塚＝

平成23年4月から令和3年3月まで10年、三ヶ尻地区生涯教育センター所長として職務に精励し、平成29年3月文部科学省第69回優良公民館表彰受賞に導くなど、生涯教育の推進に多大な貢献をされました。

◆ 自治功労 ◆



おの まさのり
小野寺 正徳さん (61)
＝西根後田＝

平成25年12月2日から令和3年12月1日まで2期8年、金ケ崎町副町長として職務に精励し、地方自治の振興発展に多大な貢献をされました。

◆ 文化功労 ◆



きくち さかり
菊地 盛さん (94)
＝三ヶ尻上関口＝

二十歳頃より三ヶ尻座敷田植踊の太鼓と三ヶ尻基句踊を習い、その後70年以上にわたり活動され、特に昭和後期から小学生の指導に力を注ぎ、郷土芸能の伝承に多大な貢献をされました。

◆ 教育功労 ◆



ちば としかつ
千葉 東志勝さん (69)
＝西根大森＝

平成21年4月から令和3年3月まで12年、西部地区生涯教育センター所長として職務に精励し、平成30年1月文部科学省第71回優良公民館表彰受賞に導くなど、生涯教育の推進に多大な貢献をされました。

◆ 感謝状 ◆

六原地区経営体育成基盤整備事業 施行委員会

＝六原＝

平成21年に事業採択されて以降、令和元年度の完工まで11年の工事期間を経て、241ヘクタールという町内で最も広大な面積の基盤整備を完了させました。

経営体育成基盤整備事業の実施にあたっては、地域内で幾度となる話し合いを重ね、10年後、20年後を見通した営農ビジョンを作成し、営農コストの削減、担い手の確保、農用地の利用集積、換地の調整など数多くの課題を解決し、特に、担い手確保にあたっては、新規農業法人の立ち上げによる高収益作物を導入した新たな営農体系の確立に取り組み、地域農業の振興に多大な貢献をされました。

◆ 農業賞 (農民文化部門) ◆



三ヶ尻座敷田植踊保存会

(昭和45年11月1日町無形文化財指定)

＝三ヶ尻淡川堤下＝

約200年に渡り受け継がれ、演舞内容が農村地域で行われる所作が表現されており、地域に根差した郷土芸能として伝承されてきました。定期的な練習はもとより、小学生への伝承や三ヶ尻座敷田植踊のルーツといわれているユネスコ無形文化遺産指定の宮城県秋保の湯元田植踊りとの交流を深め技芸の研鑽に努めています。

様々な機会や場所を捉えて普及に努め、伝統を絶やすことなく伝承活動に取り組み、地域に根差した郷土芸能の発展に寄与し、豊かな農村社会の形成に多大な貢献をされました。

※農業賞は岩手ふるさと農業協同組合との共催事業

◆ 農業賞 (農業経営部門) ◆



よこみちファーム株式会社

(平成26年4月7日設立)

＝西根桑木田＝

農業によって得られた所得を適正に地域へ配分することを目指し、8人で設立しました。農地中間管理事業を活用し、農地集積や簡易ほ場整備に取り組み、現在では52.3ヘクタールで水稲、ミニトマト、タマネギなどを栽培しています。

法人のビジョン達成にむけ、農地の出し手農家の適正に応じてオペレーターや作業員として雇用するほか、加工品にも取り組み、女性の就労の場の確保に努めています。さらに加工事業の拡大、生産の安定性を確保するため、中核となる事業所と加工施設を建設しました。この施設は地域内の新たなコミュニケーションを図る場としての機能も担っており、農業を軸に地域住民をつなぐこの仕組みは、地域づくりや地域活性化が図られ、地域農業の維持、発展に多大な貢献をされました。